

講義名	スポーツ科学演習A（フットサル/バスケットボール）		
担当教員	中尾 泰史		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
 身体活動を通じ、自身の体力、体調を把握する能力を養う。また心身の健全な発育、発達に対する気づきを高め、生涯における運動実践の重要性を知る。さらにチーム、グループ単位の活動を体験しながらコミュニケーション能力、協調性など、他者とのつながりを築く社会的教養も学ぶ。

到達目標
 1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
 2. 律やルール、基礎技術を理解し、説明できるようになる。
 3. 基礎技術を修得し、生活にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。
 オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学習などによって対応する。

提出課題
 課題提出は講義中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
 実践種目の専門技術習得については、プレー中に各自の体力、運動能力にあわせ、無理なく指導、アドバイスする。

評価の基準
 授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
 授業中の評価：受講態度など.....20%
 中間期の評価：レポート課題.....10%
 期末期の評価：レポート提出.....10%

履修にあたっての注意・助言他
 授業中、スポーツを実践していなければ、欠席とみなされる場合がある。
 必ず運動用の服装（シャツ、パンツ、短パン等）と室内シューズ（ひも付）を着用すること。
 授業中はアクセサリ類（ピアス、ネックレス、指輪）は外し、眼鏡の着用は、極力避けること。
 病気や体調不良によって休みを希望する場合は、必ず事前におよび持病やけがのある場合、事前に申し出ること。
 受講生の技術習得度によって授業計画を変更する可能性がある。

教科書				

プリント資料及び参考文献
 資料は必要に応じて配布する。

授業計画
 1回：ガイダンス
 2回：フットサルの基礎練習（インサイドキック、パス）
 3回：フットサルの基礎練習（ドリブル、シュート）
 4回：フットサルの実践（3対3）
 5回：フットサルの実践（4対4）
 6回：フットサルの実践（ゲーム）
 7回：フットサルの実践（ゲーム）
 8回：スポーツ・健康に関連した講義
 9回：バスケットボールの基礎練習（ランニングシュート）
 10回：バスケットボールの基礎練習（ドリブル・パス）
 11回：バスケットボールの基礎練習（シュート）
 12回：実施競技の歴史、技術に関する講義
 13回：バスケットボールの実践（3対3、4対4）
 14回：バスケットボールの実践（ゲーム）
 15回：バスケットボールの実践（ゲーム）
 グループ練習、ゲーム形式の実践は、新型コロナウイルス感染症の状況によって変更となる。変更時は授業中にアナウンスする。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 本学では、学期上、2単位を修得するためには、15回の授業と、1回の授業に対して、4時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。簡単な競技技術はインターネットやYouTubeの映像を見てイメージしておくこと。また授業前後に学生同士でフォームチェックやルールの確認もしておくこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。集団や個人でスポーツ実践へ取り組む中で、明るく元気で、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカのびのび、へこたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を整理し、自らが見込んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組むことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考